外国人に対する排除意識形成要因とメディア接触の影響

LH20-4028C　渥美　恵梨

現代の日本では200万人以上の外国人が生活しており，多文化共生社会が推進されている．しかし，その中で日本人が「異質」である外国人に対して抱いてしまう排除意識はどのような要因によって形成されているのかを明らかにすることを本稿の目的とした．とくに，日常において情報を得る手段として重要な媒体であるテレビ・新聞の 2 大メディアでの外国人に関する報道と接触することで外国人への排除意識形成に影響を及ぼすと考えた．その他に，メディア以外の排除意識形成要因として,政治意識や階層,年齢などの個人属性,外国人と直接接する機会の有無を用いて分析を行った．

分析には 2006 に行われた日本版総合的社会調査のデータを用いた.分析手法として,相関分析,クロス表を作成しカイ二乗検定，重回帰分析，二項ロジスティック回帰分析，一般化線形モデルの分析を用いた．分析の結果，日本人の新聞を毎日読む習慣と新聞への高い信頼から，新聞を読む頻度に関しては外国人に対する排除意識に影響を及ぼし，新聞を読む頻度が多い人ほど外国人に対して排除意識を抱くということが分かった．また,メディア接触以外の排除意識形成要因に関しては,政治意識が保守的である人ほど，階層が低く共生を嫌うため排除意識を抱くことが明らかになった.そして，自分の住む地域で外国人を見かける機会が多い人ほど外国人の存在を脅威に感じ排除意識を抱く傾向にあることが示された．その他に，年齢が高くになるにつれて外国人に対して排除意識を抱くことが確認され，さらに，若い世代ほど対外国人意識形成に新聞を読む頻度が影響を及ぼすことが分かった．これは，高齢層ほど過去に築いた対外国イメージが容易に変化しないためである.

外国人と直接交流する機会を持たないままメディアでの否定的イメージ報道を受けて偏見を持つのではなく，交流機会を持つことや外国人を受け入れる前向きな考え方が今後求められるだろう．